

使用マニュアル



松井化学株式会社
Matsui Chemical Co.,Ltd

所在地: 〒661-0026 兵庫県尼崎市水堂町 3-4-3

TEL 06(6438)7305/FAX 06(6438)4795

革製品・かばん・靴・一般衣料用顔料セットの詳細は下記のサイトをご覧ください。

松井化学株式会社 <http://www.ee-mc.jp/>

写真を加え、より詳しく解説しております。

このマニュアルの内容の一部あるいは全部を無断で複製（コピー）することは
著作権法上みとめられている場合を除き、禁じられています。

～セット内容の紹介～



持ち運びに便利なケースに収納



- 顔料⇒原色
- | | | |
|-----|---------|-----|
| 白 | : 200cc | |
| 黒 | : 30cc | 2本 |
| 他 | : 30cc | 14色 |
| 中間色 | : 30cc | 10色 |
- ・各樹脂類・軽量カップ・
 - エアブラシ洗浄剤・シリカ分散液・
 - 浸透剤・200cc用キャップ・
 - スプレー・スポイド(2本)・30cc空容器



- ・アクリルシリコン樹脂 200cc
- ・ポリエステル樹脂 200cc
- ・アクリル樹脂 200cc
- ・シリコン樹脂 200cc
- ・シリカ分散液 200cc
- ・エアブラシ洗浄剤 200cc
- ・浸透剤 100cc



16色(原色)

10色(中間色)

色見本
 中間色の原色は上段
 原色と白の配合1:3は中段
 " 1:9は下段
 になっています。(色見本のみ)

～はじめに～

顔料セットは、顔料単体と樹脂・つや消し等を別々に分けています。
したがって顔料と樹脂の配合を自由に変える事ができます。

顔料の粒子は非常に細かい微粒子であり、革においては高級感のある仕上りになります。

衣料においては染料的な使用方法が出来、今まで染料では補正しにくい色かけも比較的簡単に出来ます。

この顔料セットでの大きな特長は、非常に耐久性のあるアクリルシリコン樹脂であり、上塗りしても硬くならずサラっと仕上がります。又テカリも出にくく樹脂を使用した感覚もありません。
<例えば、薄いシルクに使用しても分からない程です。>

～色の作り方～

色確認は、お皿の水に1滴入れた(顔料)薄い色が直す衣類(靴)に合っていればOK。

顔料の色調整は少しずつ(1滴の色が濃いので)

筆で調整(他の容器に入れて調整)

注)特に黒・青、色の変色が激しい物は先に薄めて(水)で混ぜて下さい。

①革の場合

～色調整・樹脂の配合～

水の中に

顔料 : 樹脂

1 : 2～3

色調整した後に樹脂を入れる(少なめ)。

～筆ぬりとエアブラシの使用法の違い～

・エアブラシ(薄めて)

光沢がでない

シリカはほとんどいらない。

・筆ぬり

テカリを防止する為、

顔料 : 樹脂

1 : 2～3

に対してシリカ分散液を1～2滴加えて確かめて下さい。

注)顔料は薄い濃度の方が良い。



※おもりは、安定性の為に投入。

中間色は分離しますが5～6回よく振れば

均一になります。

(容器は染まっていますが

中身は均一になります。)

～アクリルシリコン樹脂の使用方法～

顔料セットで使用する樹脂で主体となる水の中に顔料1に対しアクリルシリコン樹脂を1～3の比率で使用する。革から衣料全般に使用でき軟らかく、筆ぬり、エアブラシなどで使用できる。衣料においては顔料、染料に少し配合するだけで耐久性のある色かけが可能です。

～ポリエステル樹脂の使用方法～

・合成皮革の補正

ポリエステル樹脂は軟らかくサラット上ります。

合成皮革の補修に適していて顔料1に対してポリエステル樹脂3～4の割合で混ぜてペースト状にし、筆ぬり又は手につけてうすく延ばしてぬると綺麗に仕上がります。

・ベトつきのある商品の補正

ポリエステル樹脂1に対し、シリカ分散液1ぐらいの比率で混合し水で薄めてスプレーする。

ベトつきがなくなればポリエステル樹脂又はアクリルシリコン樹脂を水で薄めた液をスプレーして強度を上げて仕上げる。

～シリコン樹脂の使用方法～

・スエード調のエクセーヌ等の合成皮革・革のスエード等の補正

シリコン樹脂は非常に軟らかくスエード調の軟らかい商品に補正しても全く硬くならない。

スエード商品はシミ抜きをすると色がはげたり風合をそこねる商品が多い。

シリコン樹脂に顔料を配合し、水で薄め筆ぬり・スプレー等で補修すれば、シミをかくしたり色かけができる。

～アクリル樹脂の使用方法～

アクリル樹脂の軟らかい材料はタック(ベトつき)が出るので下地用として補修し、その後ポリエステル樹脂・アクリルシリコン樹脂で仕上げるとやりやすい。

～エアブラシ洗浄剤の使用方法～

塗装面の樹脂の除去、やり直し時などの樹脂の除去に使用。

(除去性が強いのでタオル等にしみこませたり、水を配合して弱めて使って下さい。)

・浸透剤

ぬった場合、革の表面がはじく場合、浸透剤をスポイトで取り1滴だけ加える。

《注意事項》

アクリルシリコン樹脂で乾かしたあと再度、重ねぬりする場合、後処理樹脂がはくりする場合があります。

乾燥後の重ねぬりの場合、エアブラシ洗浄剤を水で10倍ぐらい希釈し固定面にスプレーしてドライヤーで乾燥したのち重ねぬりするといよい。(ハケでこするとムラになります。)

サンドペーパー2000(一番細かい仕上用)で軽く磨いたら色をかけて下さい。

～靴の部分補正する場合～

水	お皿の半分程度
顔料	1滴
樹脂	3滴

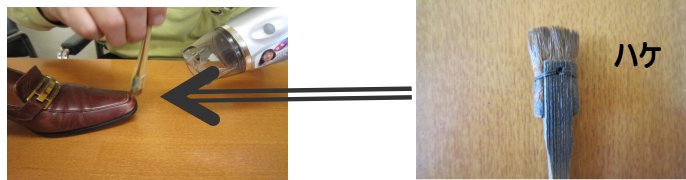


(色あわせ)

もし表面が毛羽立ち(ささくれ)がある場合、サンドペーパーで処理をする

(粗めの 300 番で削り仕上げは 600 番～800 番のものを使用)

ドライヤーで乾かしながらハケでたたく感じですり込んでいく(3～4回繰り返す)。※薄い濃度



あとはドライヤーで乾かしながら、なでるようにハケで塗っていく。※薄い濃度



最終仕上げで表面を仕上げる場合は、サンドペーパー2000番を使用したのち仕上げる。



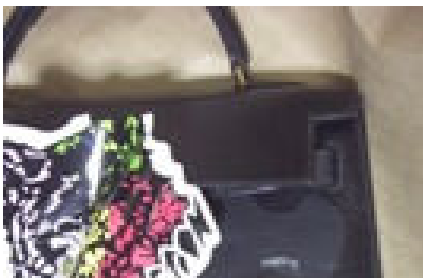
※画像はホームページに記載しております。
ご覧下さい。

～かばん補正する場合～

【1例：エルメスのケリーバッグ】



エルメスのケリーバッグにワッペンがついたものを、お客様が専門店に出したところ無理と言われ断られたバッグです。



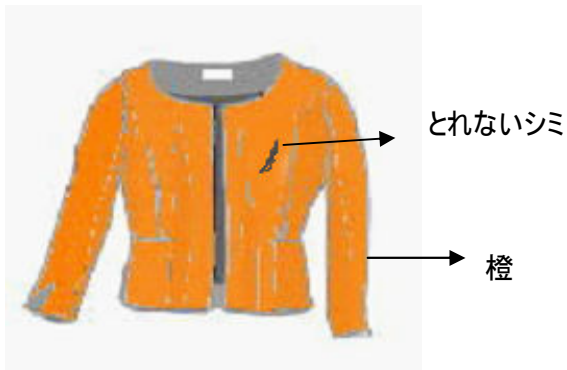
表面についたワッペンをはがすと塗料がワッペンにつきはがれてしまいました。



ワッペンをはがし修理完了した写真

ぼろぼろになった塗料面をエアブラシ洗浄剤で樹脂を溶解し表面を整え、そのあと黒の顔料とアクリルシリコン樹脂で補修。
(お客様は新品にもどり大喜びでした。)

～衣類補正する場合～



橙と白を1:4程度に配合して重ね塗りして
濃くならない様に白を配合してシミ部分を消す。

橙と白の顔料を約1:4程度に配合しドライヤーで乾かしながら重ね塗りする。
重ね塗りしても風合は硬くならない。重ね塗りしたあと地色よりも少し薄めに仕上げる。
最後に橙とアクリルシリコン樹脂で地色と合わせる。

— 色ののらない場合の補正 —

ポリエステルの色はげ、塩素による脱色など色がのらない場合、
アクリルシリコン樹脂を用いれば簡単に補正できる。
この場合、染料とアクリルシリコン樹脂の配合・顔料とアクリルシリコン樹脂の配合など
衣類の色により使い分ける。シルクの素材でも全く風合は変わらない。